

頻度からみた学習独和辞典の文型

—— arbeiten を例に ——

黒 田 廉

富山大学人文学部紀要第 71 号抜刷

2019年8月

頻度からみた学習独和辞典の文型*

— arbeiten を例に —

黒 田 廉

1. はじめに

学習独和辞典において、現在、動詞の文型の記述は一般的となっている。文型の情報は、学習者が文法的な文を書く上で不可欠であり、また文意を理解する手がかりとしても有用である。しかし、記述されている文型の範囲あるいは順序について、問題になったという話を寡聞にして知らない。見出し語については、その数および新語の追加が宣伝となることもあり、よく話題になるのとは対照的である。

学習独和辞典をみていると、初級者には直観的・経験的にやや過剰なくらい文型が挙げられていると感じることがある。たとえば、以下は動詞 *arbeiten* の『アクセス』、Duden S の記述である。Duden S の方には、対応する『アクセス』の文型の語義番号を記した。¹⁾『アクセス』は初級者向けの辞書であるが、母語話者向けで用例が豊富な Duden S にある文型をかなり採用していることがわかる。

arbeiten

1 [自] ① 働く, ...bei der Post arbeiten 郵便局に勤めている ..., für eine Prüfung arbeiten 試験勉強をする ② 《an + 3格》[...³に] 従事している; ... an einem Roman arbeiten 小説を執筆している ③ 《über + 4格》[...⁴について] 研究する Er arbeitet über Kafka. 彼はカフカについて研究している ④ (器官・機械などが) 作動する, ... Sein Herz arbeitet einwandfrei. 彼の心臓の働きは申し分ない ...

2 [再] ① 《sich⁴ + 状態》働いて [...に] なる sich⁴ krank arbeiten 働き過ぎて病気になる ② 《sich⁴ + durch + 4格》[...⁴を] 苦勞して進む sich⁴ durch das Gebüsch arbeiten 苦勞してやぶを通り抜ける

3 [非人称] [再] 《sich⁴ + 場所など + 様態》[...は...に] 仕事ができる Es arbeitet sich schwer bei

* 本稿は科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)(平成28~31年)(課題名:「ドイツ語基礎語彙のコーンに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討」課題番号:16K02667 研究代表者:井口靖)および基盤研究(C)(一般)(平成29~32年)(課題名:「欧州言語共通参照枠対応ドイツ語語彙研究」課題番号:17K02923 研究代表者:黒田廉)の助成を受けたものである。

1) 語義および記号の一部、同一辞書内での類似の用例は省略した。

diesem Lärm. この騒音の中では仕事がやりづらい

4他 ① 《4格》〔…⁴を〕作る Ich habe mir einen Anzug arbeiten lassen. 私はスーツを仕立ててもらった ② 《sich³+4格+状態》働いて〔体の一部⁴を…に〕する sich³ die Hand wund arbeiten 働きすぎて手を痛める

『アクセス』

arbeiten

1. a) ... <an etw. a.> an einem Roman, ... a. (→1 ②)
<über jmdn., etw. a.> er arbeitet über Brecht (→1 ③), ...
<an sich (Dat.) a.> er muss noch viel an sich a.
<für etw. a.> für eine bessere Zukunft, ... a. (→1 ①)
<für jmdn., etw.a. > die Zeit arbeitet für uns, ... <gegen jmdn., etw. a.> gegen seinen Vorgesetzten a.
<mit etw. a.> mit unlauteren Mitteln, ... a. <zu etwas. a.> er arbeitet zum Wohle der Menschheit ...
- b) <es arbeitet sich irgendwie; zusätzlich mit Umstandsangabe> es arbeitet sich gut in diesem Betrieb (→3) ...
2. <irgendwie a.> der Ruderer musste schwer a., ...
3. der Motor arbeitet leise (→1 ④), ...
4. <in jmdm. a.> die Kränkung arbeitete heftig in ihr; 5. (Sport) mit den Hanteln, ..., a.
6. a) <sich irgendwie a.> sich warm, müde a., ... (→2 ①)
- b) <sich (Dat.) etw. irgendwie a.> sich die Hände wund a. (→4 ②)
7. <sich irgendwohin a.> sich durch das Gebüsch a.; sie arbeiten sich immer tiefer in den Schlacht; ... (→2 ②)
8. <etw. a.> ein Kostüm nach Maß, ... (→4 ①)

Duden S

語については、近年、頻度表が複数発表され、検索に複雑な条件設定も不要なため、コーパスおよびネットからも容易に頻度が求められる。文型の場合は、手軽に利用できる頻度のデータがなく、個々の文を読んで分析しなければならないため、使用実態を把握しにくい。そのため、執筆者は定評のある独和辞典にある記述を（ある程度は選択しつつも）網羅的に取り上げることになる。採用に変化のある見出し語に比べて、文型は旧来の記述あるいは記述方法が改善されないままとなっている可能性が高い。

本稿は、独和辞典に過度に依拠することなく、より客観的な根拠をもとに学習独和辞典をつくるべく行った試みの一つである。学習独和辞典の一部の文型について、実際にはどの程度使

用されるか（使用されないか）を、大規模コーパスを用いて分析し、検証を行うものである。

2. 対象とする文型と辞書記述

本稿で対象とするのは、『アクセス』でいえば、2①②、3および4②の再帰的用法の文型である。これらは、たとえば2①と4②の結果構文のように、構文的関心からしばしば研究対象として取り上げられ、研究者にとってはなじみがあるものである。しかし、動詞arbeitenでもっとも一般的なのは自動詞用法であり、かりに再帰的用法で使用されるにしても、はるかに少ないように思われる。²⁾

再帰的用法は『アクセス』に限らず、他の学習独和辞典でもみられる。『アポロン』には『アクセス』の4②がないだけであとの文型は採用されており、『クラウン』では、2①②および4②が一箇所にまとめられてはいるが、『アクセス』の文型はすべてである。以上の3冊よりもずっと小型で、³⁾ 初級者向け限定と考えられる『ベーシック』でも2①および3の文型がある。⁴⁾

arbeiten

I 自①働く ... ② (機械・器官などが) 作動する, ...

II 再①働いて[その結果]…になる Er hat sich krank gearbeitet. 彼は働き過ぎて病気になった.

② 《sich⁴ + durch 物⁴》(物⁴の中を) 苦労して進む sich⁴ durch den Schnee arbeiten 雪をかき分けて進む.

③ 《es arbeitet sich⁴ ... の形で》仕事のやりぐあいが…である Es arbeitet sich schlecht bei dieser Hitze. この暑さでは仕事はかどらない.

III 他① (衣服・工芸品などを) 作る, 製作する

『アポロン』

arbeiten

自①働く ... ② (物が) 機能する, 活動する

③ ((再帰的に; 結果を表す語句と)) sich⁴ krank (müde) arbeiten 働き過ぎて病気になる (疲れる) sich³ die Hände wund arbeiten 働き過ぎて手を痛める . sich⁴ in die Höhe (nach oben) arbeiten 働いて出世する . sich⁴ durch den Schnee arbeiten 雪をかきわけて進む

2) コーパス導入以前の語の調査では、特異な例、珍しい例が採用される傾向があることはしばしば指摘されるところである。

3) 『アクセス』『アポロン』『クラウン』の見出し語数が5～7万あるのに対し、『ベーシック』は1万5千。

4) 以下、各辞書の記述例を示す際は、再帰的用法以外の部分は簡略化する。

④((esを主語にして再帰的に))Es arbeitet sich gut mit diesem Gerät (in diesem Zimmer).

他 製作する

『クラウン』

arbeiten

自 ①働く...

((sich⁴と再帰的に)) sich⁴ müde arbeiten 働きすぎて疲れてしまう.

((非人称で)) Es arbeitet sich gut(schlecht). 仕事がしやすい (しにくい).

②従事(専念)している ③(機械・器官が)動いている

他(服など)を作る

『ベーシック』

独辞典の場合も、学習用となると、Duden Sとは異なり、再帰的用法の採用範囲は絞られている。Langenscheidt DaF, PONS DaFには、再帰的用法はあるが、いずれの学習独和にもあった状態の語句を伴う文型、非人称用法の文型はなく、方向の語句を伴う文型のみ記載されている。小型のDuden DaF⁵⁾には、方向の語句を伴う文型と状態の語句を伴う文型があるが、非人称用法の文型はない。学習独和辞典のDuden S依存の高さがうかがわれる。⁶⁾

arbeiten

V/I 1 ..., 2 ..., 10 ...

V/R 11 **sich durch etwas arbeiten** ...sich durch den Schnee arbeiten | sich durch einen Berg von Briefen arbeiten 12 **sich nach oben arbeiten** ...

Langenscheidt DaF

arbeiten

I . intr. ①..., ②..., ③..., ④ II . tr. ...

III . refl. ■ **jmd. arbeitet sich irgendwohin** sich nach vorn arbeiten; sich durch einen Berg von Post arbeiten ...

PONS DaF

5) Langenscheidt DaF, PONS DaFが9～11万の収録数(ただし、成句・用例も含む)に対し、Duden DaFは2万(成句含む)。

6) Duden Uなど、他のDudenの母語話者向け辞書も、Duden Sと(細かな点で違いはあれ)採用されている文型は同様である。

arbeiten

1. a) <itr.> ... b) <itr.> ... c) <+ sich> ...; sich müde, krank arbeiten
2. <itr.> ... 3. <tr.> ...
4. <+ sich> ...; es dauerte einige Zeit, bis er sich durch den Schnee gearbeitet hatte.
5. <itr.> ...

Duden DaF

3. コーパスの利用と辞書編纂について

本調査でのコーパス利用と辞書編纂への応用について述べておく。本調査でのコーパスの利用のしかたはかなり限定的である。コーパスによる調査の場合、一般にそれまで周辺的あるいは例外的とされてきた語あるいは用法がどれだけ多く使用されているかを指摘する傾向にある。辞書執筆に活かす場合、記載されていない高頻度の語あるいは表現を載せる方向で利用することになる。そのような調査の場合、大規模コーパスから収集した多数の例を、多数の執筆者で分析し、記述しなければならない。⁷⁾ 予算、労力、時間がかかり、市場規模から金銭的・人的資源に乏しい独和辞典の編纂ではなかなかかなわない。

コーパスによる分析の特性について、在間（2009: 4）は次のように述べている。

- (a) 分析データの量的全体性が前提にできるようになる
- (b) 比率を問う頻度調査が可能になる

また、赤野・井上（2018: 13f.）も、辞書編纂におけるコーパス利用の意義について、全体数を基準に出現頻度の意味を考えられることとしている。

語の使用頻度についていえば、従来の手作業による用例収集で仮にある特定の用法が100例集まったとしても、それが特殊な用法なのか、頻繁に見られる用法なのかを比べる基準がないため、100という数字は意味を持たない。他方、辞書編纂のために構築された汎用コーパスであれば、コーパスのサイズ、言い換えれば母集団が一定であるので、全体として客観的な使用頻度を算出することができる。

本研究は、予算的およびマンパワー的制約が厳しい中で、以上のようなコーパス分析の特性

7) 英和辞典ではコーパスを用いることはすでに一般的で、『ウィズダム』のように、専用コーパスを用意し、それに基づいてつくられた辞典もある。

を利用したコーパスの応用である。すなわち、特定の、どちらかと言えば頻度が低いとみられる表現に焦点を当て、独辞典とも比較しながら、記述を削減する方向で一つの尺度を得るための調査である。

4. 調査結果と辞書記述の改善

調査に使用したコーパスは、マンハイムのドイツ語研究所 (Institut für Deutsche Sprache) の COSMAS II で検索できる次のアーカイブである。

W2 - Archiv der geschriebenen Sprache, W2 - öffentlich - alle öffentlichen Korpora des Archivs W2 (mit Neuakquisitionen)

学習独和辞典のための検証ということで、検索例は最近のものに限定し、年代を2010～2019年に設定、2019年2月18日に検索を行った。arbeitenのすべての例を検索したところ、ヒット数は3,874,555であったが、COSMAS IIの内部制限により、出力することができたのは10,000例である。出力例の中から、再帰的用法で使用されているものを一例ずつ確認しながら抽出し、頻度を求めた。結果を文型ごとに示す。

ア) sich⁴ + 状態の語句：該当例なし

イ) sich⁴ + 方向の語句：48 (35)⁸⁾

nach vorn[e]: 16 (11)

(1) Der Mannschaft um Tony Sterzinger und Michael Mantel ist aber durchaus zuzutrauen, dass sie sich weiter *nach vorne* arbeitet. (FRT13/SEP.03709 Fränkischer Tag, 14.09.2013)

(2) Seinem Team ist es beinahe unbemerkt gelungen, sich *nach vorn* zu arbeiten.

(KSA10/NOV.05621 Kölner Stadt-Anzeiger, 19.11.2010)

durch ...: 10 (8)

(3) "Das habe ich so gelassen", sagte Zurek und freut sich über die vielen Regenwürmer, die sich *durch den Kompost* arbeiten. (KSA13/AUG.00694 Kölner Stadt-Anzeiger, 03.08.2013)

8) () 内は重複例を排除した場合の数である。新聞・雑誌が多い書き言葉コーパスには、同じ記事が複数の新聞・雑誌に掲載されるため、同じ例で出典のみが異なることが多くある。井口・恒川・成田・黒田・カン (2019: 76) 参照。

(4) So gelte es, sich *durch eine Liste von 500 bis 600 Titeln* zu arbeiten, ...

(HZZ15/APR.01865 Hohenzollerische Zeitung, 17.04.2015)

nach oben: 9 (8)

(5) Dann werden auch hier Stützen gestellt - so können sich die Fachleute nach und nach bis zum 4. Stock *nach oben* arbeiten. (HKR17/FEB.01337 Höchster Kreisblatt, 07.02.2017)

(6) Ältere Spieler dürfen nur bis zu einer gewissen Gruppe absteigen, die Jüngeren können sich dafür bis ganz *nach oben* arbeiten. (K10/JAN.11588 Kleine Zeitung, 26.01.2010)

in ...: 8 (4)

(7) ..., während sie sich nach der Geburt ihres zweiten Kindes langsam zurück *ins Berufsleben* arbeite. (HST10/APR.02329 Heilbronner Stimme, 09.04.2010)

(8) ..., wenn die Bohrkronen Stück für Stück durch das lockere Gestein *in den Untergrund* arbeiten. (DEC16/JUL.03467 Darmstädter Echo, 13.07.2016)

empor: 2 (1)

(9) Fünf Spielerinnen der A-Jugend haben schon als Bambini mit den Jungs trainiert und sich langsam *empor* gearbeitet. (AAZ14/AUG.00892 Aachener Zeitung, 05.08.2014)

über ...: 1

(10) Stück für Stück hat man sich so *über das Tal* gearbeitet. (KUR14/NOV.05359 Kurier (Österreich), 22.11.2014)

hoch: 1

(11) Er hat klein angefangen und sich mit fachlicher und sozialer Kompetenz *hoch* gearbeitet. (GAZ13/JUL.05038 General-Anzeiger, 12.07.2013)

an ... vorbei: 1

(12) Bei Re-Start kam Alt zunächst nicht gut weg und musste sich *an vielen Konkurrenten vorbei* arbeiten. (KSA15/NOV.03205 Kölner Stadt-Anzeiger, 11.11.2015)

エ) sich³ + 4 格 + 状態の語句 : 該当例なし

再帰的用法のうち、例がみつかったのはイ)の方向の語句を伴う文型のみで、48例あった。Duden Sおよび独和辞典で1番目に記載されていた、ア)の状態の語句の文型の例、ウ)の非人称用法の文型の例、エ)の4格および状態の語句を伴う文型の例はなかった。イ)の具体的な方向の語句としては、nach vorn[e], durch前置詞句, nach oben, in前置詞句が比較的多くみられた。

辞書の記述と比較すると、方向の語句を伴う文型のみを採用しているPONS DaFおよびLangenscheidt DaFの記述が調査結果に近い。⁹⁾とくにPONS DaFは、方向の語句として多かったnach vorn, durch前置詞句を挙げてみている。Langenscheidt DaFの方は、方向の語句をdurch前置詞句に限定しているが、調査結果、PONS DaFおよびDuden Sの用例にもあるとおり、他の語句も使用される。また、Langenscheidt DaFではsich nach oben arbeitenを「出世する」という意味の成句としているが、例(5)のように必ずしも成句としてのみ使うわけではなさそうである。独和辞典では調査結果をみる限り、再帰用法の文型の数あるいは配列について改善の余地があるであろう。方向の語句を伴う文型とその用例のみを載せる、または、少なくとも方向の語句を伴う文型と用例を最初に挙げる必要がある。方向の語句もdurch前置詞句に限定された書き方を避けることになる。『アクセス』を例に、記述を削減する方向で改善例を示すと次のようになる。

arbeiten

- 1 **自** ① 働く, ... ② 《an + 3格》[...³に] 従事している; ... ③ 《über + 4格》[...⁴について] 研究する ④ (器官・機械などが) 作動する, ...
- 2 **再** 《sich⁴ + 方向》[...⁴を] 苦勞して進む△sich⁴ nach vorn arbeiten 苦勞して前に進む / sich⁴ durch das Gebüsch arbeiten 苦勞してやぶを通り抜ける
- 3 **他** ① 《4格》[...⁴を] 作る ...

5. 最後に

以上、学習独和辞典のarbeitenに記載されている再帰的用法に限定して、コーパスにより文型の頻度を調査した。その結果、全体の比率から言えば、再帰的用法は小さく、載せるにしても結合する語句の頻度の違いにより、改善の余地があった。

9) 一例ではあるが、CEFR B1レベルの教科書J. Braun-Podeschwa/C.Habersack/A. Pude: *Menschen B1.1: Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch*. München: Hueber. 2014.には動詞arbeitenの使用例が108あり、そのうち唯一ある再帰的用法の例は方向の語句を伴う次の例である。Fragen Sie mit dem Besteck ganz außen an und arbeiten Sie sich zum Besteck, das innen liegt, vor.

本調査で収集した例は10,000であり、現在のコーパス調査の規模からみれば、数的には比較的限られているかもしれない。¹⁰⁾ また、書き言葉コーパスで、例文の出典は新聞・雑誌が多いという問題がある。しかしながら、他の独和辞典の記述状況も考え合わせると、少なくとも採録項目を選ぶ参考にはなる。かつては複数の異なる辞書記述がある中で、どれを選択するか直観と経験によるしかなかった。少なくとも、記述する情報を選択する際に、独和辞典以外の一つ有力な手がかりが得られたということは言えよう。

辞書は、紙のものに限定する限り、スペースの制約がある。記載する情報は、あるものを載せれば別のものが載せられなくなるというトレードオフの関係にある。とくに学習独和辞典は一般辞典とは異なり、学習者に必要な情報を与えつつ負担にならないように、メリハリのある記述のしかたが求められる。井口・恒川・成田・黒田・カン (2019: 77f.) では、有用性から疑問のある用例を挙げ、典型的・一般的な表現の記述という面では改善の余地があることを指摘した。使用頻度の比率を勘案し、一方では典型的・一般的な情報を増やしつつ、他方では非典型的で低頻度な記述を減らしていくことも必要となるであろう。

10) 田野村 (2004: 26) は、「周知的、例外的な用例の単なる量的な拡大も、研究に対しては質的な拡大をも同時に意味する。従来ならば孤例として捨てることができたような用例もその絶対数が増えることで重みが増し、考察の対象から外してしまうことがためらわれるようになるからである。例えば、従来の用例収集法で得られた用例 100 例の中に例外的な用例が 1 例含まれていたとしても、そうしたものは単なる特殊例あるいは誤用としてさほど迷うことなく捨てることができた。それだけの用例の限りでは、その 1 例がほかに類例を持たない真の孤例である可能性が十分に考えられるからである。しかし、その可能性は大規模な電子資料から用例を 3 万例得てその中に同種の例外的な用例が 300 例見いだされた時点で否定される。このように、用例中の比率は同じでも、絶対数の増加は周知的、例外的な用例に対する研究者の接し方に影響を及ぼすことになる。」と述べている。10,000 例中の頻度ゼロあるいは 48 も、周知的、例外的な用法にとどまることになるのであろうか。

辞書

([] 内は本文中で用いた略称)

井上永幸・赤野一郎他『ウィズダム英和辞典』第4版 三省堂 2018年	[ウィズダム]
伊藤 眞監修『ベーシッククラウン独和・和独辞典』三省堂 2018年	[ベーシック]
在間 進他『アクセス独和辞典』第3版 三修社 2010年	[アクセス]
根本道也他『アポロン独和辞典』第3版 同学社 2010年	[アポロン]
濱川祥枝他『クラウン独和辞典』第5版 三省堂 2014年	[クラウン]
Duden. Standardwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. 3.Aufl. Berlin. 2018.	[Duden Daf]
Duden. Stilwörterbuch. 10.Aufl. Berlin. 2017.	[Duden S]
Duden. Universalwörterbuch. 8.Aufl. Berlin. 2015.	[Duden U]
Langenscheidt Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. Berlin. 2015.	[Langenscheidt DaF]
PONS Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. Stuttgart. 2015.	[PONS DaF]

引用文献

- 赤野一郎・井上永幸 (2019) 「コーパスは辞書編纂にいかにかに寄与したか」赤野一郎・井上永幸編『英語コーパス研究シリーズ第3巻 コーパスと辞書』ひつじ書房, 1-42.
- 井口靖・恒川元行・黒田廉・成田克史・カン ミンギョン (2019) 「コロケーションと独和辞典の記述——コロケーション活用の可能性と限界——」『三重大学教養教育機構研究紀要』第3号, 73-89.
- 在間 進・時田伊津子編 (2009) 「大規模コーパスを用いたドイツ語研究」日本独文学会研究叢書 061
- 田野村忠温 (2004) 「周辺性・例外性と言語資料の正確——その相関の考察」『日本語文法』第4巻2号, 24-37.